

テーマ：忘れないで

特集：出発までにしたい10のこと

目次

- ・書くこと（椿由美）
- ・楽しむ（杉岡美季）
- ・忘れないでほしい3つのこと（望月瞳）
- ・愛されて（大谷静佳）
- ・君色（立入朗人）

From Editor

こんにちは。今月号が出発前に皆さんに渡す最後のR²です。いよいよ出発の日が近づいていますね。今月のテーマは「忘れないで」です。皆さんはオリエンテーションや行事を通じて、これまで様々なことを学んできたと思います。しかし、当初誰もが抱いていたであろう「留学したい」という純粋な気持ちを忘れないでほしい、そんな思いを皆さんに伝えたくてROTEXが最後のメッセージを綴りました。参考にしてみてくださいね。では、行ってらっしゃい！！

書くこと

writer: 椿 由美



待ちに待った出発を目前に控え、みなさんどんな気持ちでいますか？みなさんがこれから派遣国で過ごす1年間は、きっと一生忘れられない1年となるでしょう。たくさんの出会いや、初体験の連続、新たな発見が待っているはずですよ。

私はみなさんがロータリーの派遣学生になって本当によかった、と思っています。大学生になった今、私たちの回りにはたくさんの留学機関がありますが、普通の留学と違い、ロータリーという世界的なネットワークに守られて、年間を通して様々な催しを提供していただける、これほど恵まれた留学プログラムは他にないと本当に実感しています。

みなさんに現地でぜひやってほしいのが、自分がやりたいこと・興味を持ったことを「書く」ことです。私自身、出発前までオーストラリアについて漠然と知識はあったけれども、実際に自分はこの地で生まれたのではないかと錯覚するほどに現地になじんで、まったく違った人生を謳歌している人たちを見たときに、自分の視野がどんどん広がるのを感じました。そんなときに「私はここにいる間にこれをやりたい！」と強く思ったことを、手帳にメモ書きしてください。書くことで、目標は一步実現に近づきます。みなさんが現地でも興味を持ったことは、何年たってもみなさんの中にあり続けるでしょう。そして、みなさんの夢の実現を様々な形で支えてくださる皆さんへの「ありがとう」に心をこめてください。

これからの一年間はみなさんのものです。ぜひ、五感を通していろいろなものを感じ、その体験を人生の宝物にしてください。

楽しむ

writer: 杉岡 美季



いよいよですね！

7月に出発する人。8月に出発する人。まだ出発日が決まらず不安な人。大丈夫です。遅かれ早かれみなさん必ず出発はできるので、心配しないでください。

これから、留学をするみなさんに伝えたいことがあります。ながーい人生において3～4年くらいしかない高校生活はとても貴重なものですね。その中の海外で過ごす1年間なんていったら、もっともっと貴重なものです。そんな貴重な体験をするみなさん、これから私が言うことを1年間忘れずにいてください。それは、「楽しむ」ということです。大したことではありません。だからこそ忘れやすいことなのです。自分が楽しくないことは無理してしなくてもいいのです。貴重な1年ですから、楽しいことをたくさんした方がいいに決まっています。

だけど楽しむというのは、楽をするということではありません。自分が楽しむためなら大変なことでも、努力を惜しまないでください。例えば、言葉が通じずもどかしい思いをすることでしょう。言葉を学ぶということは決して容易いことではありません。大変なことです。けどもし今よりも言葉がうまくなったら、友達とのお喋りももっと楽しくなります。映画やドラマがもっと楽しくなります。先の楽しみを手に入れるため、今は楽しくないこともがんばってみてください。

あとで思い返したとき、楽しい思い出で溢れている、そんな1年間にしてほしいと思います。そして1年後、みなさんの楽しかった思い出が聞けることを楽しみに待っています。

行ってらっしゃい。

忘れてないでほしい3つのこと

writer: 望月 瞳



皆さん、とうとう出発のときがやってきましたね。おめでとうござい
ます。私も、出発を直前に控えた2年前の今ごろ不安と期待で胸がいっ
ぱいでした。そんなみなさんに、派遣中にぜひ忘れないでほしいこと
を3つ紹介します。

まず1つめは、どんなに小さなことでも必ず誰かに相談してほしい
ということです。派遣先に着いてから、色々なことが皆さんを待ち受
けていることでしょうか。新しい場所、家族、友達、学校…。その中で、
最初は慣れないことや好きになれないこともあるかもしれません。そ
んなときは、必ず誰かに相談してください。HF、友達、同じ地区の留
学生、日本の家族、ROTEXなど、相談できる相手はたくさんいます。
ストレスが溜まるほど、留学中に辛いことはありません。きっと、み
んなあなたの話に耳を傾けてくれるはずです。そして、話してみると
「思ったほど深刻じゃないかも」と、気が楽になることもよくあります。

2つめは、どんどん新しいことに挑戦して、楽しむことを忘れない
でほしいということです。それぞれ派遣先では、見るもの全てが新し
く日本とは違う慣習・文化がたくさんあるはずですよ。そんなとき、「こ
れは日本と違うから」といってしまうのではなく、とりあえず挑戦し
てみてください。意外に面白いかもしれないし、もしそうでなくても
話の種にはなります。また、勉強などの面では無理をし過ぎずに自分
のペースで進めると良いと思います。適度に力を抜いて、楽しんでく
ださい。

最後の3つめは、絶対にROTARYの留学生であることを忘れない
でほしいということです。留学生活は本当に楽しく、ときに羽目を
外したくなるときもあるでしょう。でも、そんなときは自分が何の目
的で派遣されているのか考えてみてください。それさえ忘れなければ、
適度に羽目を外しながら留学生活を楽しめると思います。

長くなりましたが、皆さん、派遣学生に選ばれてから約8カ月の準
備期間お疲れ様でした。ここからが、本当のスタートです。皆さんが
素晴らしい1年を過ごせるよう、心から祈っています。行ってらっしゃ
い！

CAN/2007

R2チームより

最後のメッセージ

あんたが主役!!

目一杯愛されて

writer: 大谷 静佳



いよいよ今までの人生で一番のチャレンジが始まろうとしています
ね!! ドキドキしていますか?それともわくわくしていますか??

当時の私は、勝手にプレッシャーを背負い込み今にも押しつぶされそ
うでした。早く行きたいと言っている友達が本当に羨ましく思ったのを
今でも覚えています。でもそんな私でさえ掛替えのない素晴らしい時間
を送ることができたので、きっと皆さんにも素敵な一年が待っていると
思います。

確かにROTARYを通して留学をするということは“親善大使”になる
ということです。でも、この言葉をあまり重くネガティブに考えないで
ください。皆さんには思いっきり笑って、思いっきり楽しんで欲しいで
す。そしてホストファミリーや友達を大好きになって、目一杯愛されて
ください!!それがお互いの国の印象へ自然とつながっていきます。も
し辛くなった時は、ROTARYだからこそ知り合えた仲間、同志の顔を思
い出して下さい。世界のあちらこちらで皆頑張っていますよ!笑顔とあ
りがとうを忘れずに。一年後ROTEXとなった皆さんに会えるのを楽し
みにしています!!行ってらっしゃい!!

KOR/2006

君色

writer: 立入 朗人



最後に1つ、僕から皆さんに伝えたいことがあります。それは留学
生活を“自分色”に染めてほしいということです。

皆は日本での留学準備期間中にROTEX他様々な人から、留学経験談
を聞いたり読んだりしてきたと思います。そこで忘れてほしくないの
は、同じ留学生活は2つとして存在しないということ。皆の顔がそれ
ぞれ違う様に、留学だってする人によってそれぞれ違った顔を持ちま
す。そんな自分の留学生活が、今まで自分が聞いてきた体験談と違っ
て焦ったり不安になってしまうこともあるかもしれない。でも、それ
は違って当然なんです。

いよいよ始まる留学生活。皆さんは留学という物語の主人公です。
物語の中では楽しいことや辛いことだってあると思います。でも当然、
主人公が違えばそれぞれの物語の中身は異なりますよね。だからその
違いを恐れる必要は全くありません。皆と一緒にいる必要なんて全く
無いんですから。むしろ、違うからこそ面白いんです。

皆が持っている個性を存分に生かせば、きっと自分らしい留学生活
が送れると思います。留学を思いっきり君色に染めて、“世界に一つだ
けの留学生活”を送ってくださいね。

個性だって留学だって、みんな違ってみんな良いんです。

BRA/2005

一特集一

出発直前になると、どうしても派遣国に着いてからのことで頭がいっぱいになってしまいますよね。そこで、今回は ROTEX が出発直前にしておけばよかったこと・してよかったことを聞いてみました。当たり前だけど、言われてみると確かに重要なことが多いので、ぜひ参考にしてみてください！

出発までにしりたい

自分の部屋を一年後に見てもしまい場所が把握できるように片づける

留学生活の目標や目的をしっかりと決めておく

帰国後にすることをメモしておく

派遣先で具体的に何がしたいのかを考えておく

日本の学校の先生 & クラスメートに挨拶する

出発前に抱えている悩みは全て誰かに話して解消する

親友に手紙を書く

親戚に会いに行く

気になっていることがあれば ROTEX に聞いておく

派遣先でどんな風に授業を取りたいか考えておく（同じ派遣先の ROTEX に聞くといいかも）

10のついで



R² は、当 2780 地区多くの ROTEX の方々、
ガバナー事務所の協力を基に発行されています。
多大なる尽力に感謝いたします。

R² 編集長：椿 由美
(2005 年度オーストラリア派遣)